

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名

みずき)

事業所番号	0670101591		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム友結		
所在地	山形市桜田西1丁目13-9		
自己評価作成日	令和 2年 11月 18日	開設年月日	平成 16年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

メリハリのある生活を送って頂ける様に家事活動、レクリエーション活動をすべてのお客様が行えるように支援している。また、室内での行事活動を毎月3件を目標に企画を立案し充実を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2年 12月 23日	評価結果決定日	令和 3年 1月 15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人グループの共通理念と行動指針を念頭に常に振り返りながら、利用者が笑顔の中で生き生きと暮らせる事を目指しています。コロナ禍で外食など従来の生活ができなくなった今、テラスでお茶会をしたり皆でおやつを手作りして食べたランチのテイクアウトなど毎月3回以上を目標に行事を企画し、生活にメリハリをつけ楽しんでもらっています。またSNSを活用し日ごろの様子を伝え、ボランティアの学生とWebで歌やクイズで交流し、新しい生活様式の可能性を見出しています。法人グループの研修機関「コヤマカレッジ」で学び資格取得を支援して全体のケアの質向上に繋げ、利用者一人ひとりがその人らしい生活ができるよう取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部 項 目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内へ事業所の理念を掲示し、常に共有できる環境を作っている。グループの行動指針より毎月の目的を掲げ実践し月末に評価を行っている。	法人グループの共通理念や行動指針などをネームホルダーに入れ、いつでも確認できるようにしている。「こやまケア行動指針」の中から毎月の一つ選んで取り組み、ユニット会議でその達成度を数値化して評価し、利用者の満足に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内一斉清掃への参加、WEBにて学生ボランティアとの交流会を行い繋がりをもつ機会を設けている。	コロナ禍で例年のような地域交流はできなかったが、町内一斉清掃に参加し近況をたずね合うなど、これまで培った関係を維持している。また有事の際に協力を依頼し、地域住民には避難場所の提供などで災害協定を結び相互協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて事業所の取り組みを報告、広報誌等を配布し情報を発信している。ブログやインスタグラム等にて活動や取り組みを掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の日々の活動、行事報告やインシデント・アクシデント報告を行い多方面より意見を頂いている。	今年度は新型コロナ対策で書面開催とし、町内会役員などのメンバーに行事実施・利用状況・事故などについて報告をしている。書面の配布は手渡しで行い、メンバーからは利用者や職員への気遣いもあり、現状を理解してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広報誌配布や運営推進会議報告書の提出、事故報告書への対策について意見を頂き改善策に取り入れている。また、運営推進会議のメンバーとして社会福祉協議会の方より協力頂いている。	事故報告などの際に現状を説明しアドバイスをもらうなど、困り事があればいつでも相談できる関係を築いている。新型コロナ対策では様々な情報の提供や予防用品の在庫問い合わせ、支給などもあり連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所内年間勉強会の予定にて、身体拘束を組み入れ職員の知識向上を図っている。玄関の施錠は夜間帯のみとし、日中帯は職員の見守りやケアを工夫し離棟防止に努めている。更に毎月のユニット会議にてセンサー使用者の評価を行い職員で状態や状況の報告を行っている。	運営推進会議を身体拘束の検討会として活用し、身体拘束を行っていない事やセンサー利用について毎回報告し第三者の目から評価を受けている。「身体拘束排除マニュアル」を基に研修で学び、感想を提出し内容や弊害を理解している。ユニット会議では離設などの事例毎に話し合い、対応を統一して抑圧のない生活を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内年間勉強会予定にて、高齢者虐待防止について勉強会を実施し日々のケアに活かし虐待が無い様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内年間勉強会予定にて、権利擁護についての勉強会を実施し職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際にはその都度お客様、ご家族様へ説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族様代表様にメンバーとしてご協力を頂きご意見を頂戴している。また、毎年お客様アンケートを実施頂いた意見を改善し反映させている。	利用者からは日々の言葉の中で、家族からは来訪時に意見や要望を聞き取りサービスに取り入れている。また毎年「お客様アンケート」を実施し、集計した結果は数値化し見えてきた改善項目や改善策も開示して運営に反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の会議や定期的に面談を実施し職員の意見を聴き、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理シートを活用し、職員の努力や実績を適切に評価し、人事考課の際に判断材料の一つにしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のスキルや力量に合わせ、研修参加年間予定表を作成し、法人内外の研修に参加できる機会を設けている。また、ユニット会議にてKYTを取り入れている。	コロナ禍のため内外の研修はWebで実施し、併設するデイサービスやユニット間も含め法人内の交換研修も活発に行い、相互の優れた点を見出して取り組んでいる。また日常生活の写真から危険を察知する訓練などもしてケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連合協議会の会議への参加、法人内外研修への参加で情報交換や職員の知識向上を図りサービスの質向上に取り組んでいる。	グループホーム連絡協議会などの同業者が一堂に会する企画がほとんど中止となっており、交流の機会もなくなっている。その中でWeb勉強会に参加し、講義内容から他事業所も悩みや困り事は同じことを知り励まされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前や契約時にご本人様とお会いし、要望や不安な事等をお聴きし、ご本人様が安心してご利用頂ける様に努める。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前や契約時にご家族様にお会いし、不安な事や要望をお聴きし信頼関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に事前調査を行い、ご本人様とご家族様の要望や身体状況を把握し、カンファレンスを行いケアプランを作成している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の意思を尊重し、家事活動等行える活動は複数のお客様と職員が一緒に行い、良い関係を築ける場を提供している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診報告の際に、ご本人様の状態や近況の報告を行い情報共有を行っている。また、WEB通話、窓越し面会、お手紙やはがきのやり取りを行いご本人様とご家族様の絆を大切にしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流が図れるよう、窓越し面会やWEB通話を利用して交流出来る機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が良好な関係を保てるよう配慮し、必要に応じて職員が間に入りコミュニケーションが図れるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も施設職員がご本人様に面会に伺い、ご家族様やご本人様の相談や経過についてフォローしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いやご希望等はセンター方式を活用し情報を得ている。表現困難なお客様は、日々の表情や言動からくみ取り職員全員で情報共有を行い支援している。	入居前に利用者や家族等と面会し、やりたい事や好きな事を聞き取りケア記録で共有し日々の家事や運動・行事に取り入れている。手作りおやつや行事食・花植え・壁飾り製作などを率先して行い、役に立つことが喜びとなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面会時にご本人様、ご家族様、介護支援専門員等より情報を得て把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化や心境など日々の申し送りと記録で全職員情報共有を行っている。また、センター方式を活用し残存機能を活かしたケアプランを作成し実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人様ご家族様よりご希望等を伺い、アセスメント、カンファレンスを行い課題の評価、分析を行いケアプランを作成し毎月評価している。	利用者の意向を最優先に家族の思いも大切にして、家事・運動・趣味など楽しみながら持てる能力を発揮できるようプランにあげている。日々の記録を大事にして全職員や看護師の意見も取り込み検討や評価を行い、その人らしい暮らしを支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、体調変化とケアプランに沿った記録を行い、職員間で情報共有しケアプラン変更時に活用している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様参加の活動は新型コロナウイルス感染予防の為実施されていない。しかし、地域との繋がりが途絶えないように、WEBを利用した活動に参加している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前に主治医、協力医療機関より情報を頂き、入居後も日々の状態等の情報共有を図っている。	ほとんどの方が協力医を希望し職員が通院介助している。結果は家族等に電話で報告し、状態や薬の変更などを共有している。週2回の訪問看護師とは24時間連絡がとれる体制にあり利用者の健康管理や対応に助言や指示をもらい、また歯科医と歯科衛生士の定期訪問もある。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時にお客様の状態報告、アドバイスを頂き必要に応じて処置や受診の指示を受けている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず職員が同行し、その場で情報提供を行い、また介護サマリーを作成しお渡ししている。入院中は、ご家族様との連携を密にし退院時の話し合いに出席し医師等より情報を頂いている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人様ご家族様に説明を行っている。また、担当者会議にてご家族様の意向を確認し、主治医や訪問看護師へ情報提供を行っている。	契約時に事業所では医療行為ができない事、看取りは行わない事を説明し理解をもらっている。重度化して食事が取れなくなった段階で家族等と共に主治医から説明を受け今後の方針を共有して、できる限りの支援で穏やかに暮らしてもらえよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切に対応できる様に、緊急時対応方法や心肺蘇生法講習会に全職員が参加し対応方法を身に付けている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と災害協定を結び、また年2回避難誘導訓練を行いお客様を安全かつスムーズに誘導出来る方法を学んでいる。	9月に併設するデイサービスの大規模訓練に伴い机上訓練を行い、10月にグループホーム独自で夜間想定火災避難訓練を実施している。2階からの避難に備え訓練終了後職員のみで搬送訓練も行っている。また昨年の反省から防災委員会を中心に緊急避難連絡網を使った訓練を増やし防災意識を高めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、認知症についての勉強会を行い職員一人一人が理解し、お客様に合った声掛けやケアを行っている。	利用者一人ひとりに合わせた声掛けや対応の仕方を職員間で話し合いながら「お客様」として接し、挨拶や手伝いに感謝の言葉を忘れないように心掛けている。また小声や耳元での排泄誘導や入室時のノックなど羞恥心やプライバシーに配慮している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でご希望をお伺いし、ご自分で意思決定できるよう声掛けやケアを行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを把握しケアプランに活かしている。また、その日のお客様の意向を確認しながら過ごして頂いている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にお客様より衣服を選んで頂き、また希望時には理容師のかたに来所して頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話でお客様の好みを伺い提供している。盛り付けや準備、後片付け等お得意な事を見つけ、職員と一緒にやっている。	本部栄養士の献立をもとに3食手作りの食事を提供している。コロナ禍で外食ができない事もあり、レクリエーション活動でお好み焼きやおはぎ作り、中庭でのバーベキューや芋煮会など季節に合わせて趣向を凝らし、寿司や弁当のテイクアウトも楽しみ、ブログやグループホームだよりで笑顔を発信している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を基に食事を提供している。お客様一人一人に合った食事量と水分量を確保している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。更に定期的に歯科医と歯科衛生士が来所しケアを行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お客様一人一人の状態や排泄パターンを把握しトイレにて排泄を行っている。	自立の方も多くトイレに行った時はさりげなく確認をしている。チェック表やしぐさでタイミングを見逃がさず声がけてトイレでの排泄支援に取り組んでいる。転倒リスクに備え家族の希望で夜間ポータブルトイレを使用している方もいる。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のため、2日に1回ヤクルトを召し上がって頂きまた毎日体操を行っている。個別で毎日ヨーグルトや牛乳を召し上がり予防に取り組んでいる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前にご本人様に希望をお伺いし、希望に添える様に工夫している。	いつでも入浴できるように準備し、本人の意思を尊重して「今日入りませんか」と声をかけている。状態に合わせて2人介助を行い、全身観察や長風呂、転倒防止に気を付けて気持ちよく入ってもらっている。入浴後は水分補給や身だしなみを整えてさっぱりとした気分で過ごしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を事前にお伺いし、休養時間を設けお客様の生活ペースに合わせて生活している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の状態に合わせた服薬方法や禁止食品を把握し提示し情報の共有を行っている。またお客様の状態変化時は訪問看護師や主治医に報告している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の事前調査時に得た情報を基に一人一人に合わせた役割を行う機会を設けている。また、日常の会話の中から楽しみごとや嗜好品をお伺い希望を叶えられるように行事企画を立て実施している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防を行いドライブに出かけ、またユニット外で交流を持ち気分転換を行っている。ご家族様に協力を頂き受診や散髪等の機会を設けている。	日常的に中庭やテラスに出て外気浴する中、童心にかえってシャボン玉を楽しんだり、職員と一緒にゴミ出しに行ったりしている。今年はおじさいや紅葉見学も車中からとなったが、中庭に集まりユニット合同のバーベキューや芋煮会をして楽しい企画で盛り上がっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理されている方はいないが、ご本人様の希望に合わせて買い物等は職員が対応している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	WEB通話、窓越し面会の機会を設けている。また年賀状、残暑見舞いなどをお送りしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物を行い居心地の良い環境作りを行っている。また、トイレには消臭剤を設置するなどの配慮を行っている。	加湿器や換気、消毒などを徹底して感染症対策を強化するとともに、レクリエーション活動で作成した季節の装飾物や行事の写真を掲示して達成感や思い出を味わっている。不安そうにいる方にはリビングのソファや和室に誘い、ゆっくり話を聞いて落ち着くまで寄り添っている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでお客様同士楽しく過ごされたり、景色の見える場所で一人で過ごせるように工夫し居心地よく生活出来るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にご本人様が慣れ親しんだ家具や写真等を持参して頂いている。入居後はご本人様の好きな物や写真を貼り居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	<p>和室とフロアの部屋がありクローゼット・洗面台・ベッド・エアコンを備えている。人形や置物など飾る事が好きな方や船の模型や仏壇を置いている方など、思い思いに自分らしい部屋作りをしている。夜勤職員は居室全体が見える場所で待機し、定期的な巡回と気配を感じたらすぐ駆けつけて安心な見守りに努めている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の状態を把握し、職員同士情報を交換、共有し安全に自立した生活が送れるように工夫している。</p>			